

顔垢の繰返し洗濯における温水洗浄効果について  
東京ガス㈱ 商品開発部 杉山 淳子

〔目的〕近年、家事の合理化傾向が強まり、家庭洗濯では全自動洗濯機の普及がめざましい。反面、給水直結型の全自動洗濯機の通常洗濯では、ひどい汚れをおとしきれず、つまみ洗い・つけ置き等に頼っているのが現状である。より少ない手間と短時間でできる家庭洗濯実現のため、温水洗浄をとり入れた合理的な洗濯方法を明らかにすることを目的として検討を行なった。

〔方法〕試験布として、縫いあわせた2枚の綿布中央に顔垢をこすりつけた油脂系天然汚垢布を使用した。汚染後2枚の布に分離して市販の全自動洗濯機で市販のコンパクト洗剤を用いて洗濯し、その洗浄率を洗浄前・後の綿布の反射率より求めた。測定後再び2枚の布を縫いあわせ、同一サンプル提供者が再汚染し洗濯する作業を10回繰り返した。10回の洗浄率の変化から温水洗浄効果を検討した。

〔結果〕①1回の洗濯では洗浄力に差がでない実験項目間でも、繰返し洗濯をすることによって洗浄力の差を明らかにすることができた。②繰返し洗濯回数が増すにつれて綿布への残留汚垢量は増加する。③40℃洗濯は15℃洗濯に比べて1回ごとの残留汚垢量は少なく、洗濯回数が増す程洗浄率の差が大きくなる。④40℃通常洗濯に比べて、市販の濃縮液体洗剤を部分汚れに塗布する等の手間+40℃洗濯はさらに洗浄効果がある。⑤つまみ洗い・濃縮液体洗剤塗布後に15℃・40℃で通常洗濯した場合を比較すると40℃の方が洗浄率が高い。

今後、油脂系の汚れの洗浄効果を高める温水洗濯を上手にとり入れた洗濯方法の提案が必要であると考えらる。